

神話的世界と自然哲学者たち

2018 年追試

問 3 次のア～ウは、万物の変化について考えた古代ギリシアの自然哲学者たちの説明であるが、それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

13

- ア 生成変化し流動する万物には、根源(アルケー)があり、生命の源となる水がその根源であると考えた。
- イ 万物はそれ以上に分割することのできない原子(アトム)から成り、原子は空虚のなかを運動すると考えた。
- ウ 火・空気・水・土という四つの元素が愛・憎によって結合・分離することで、万物は変転すると考えた。

- | | | | | | | |
|---|---|---------|---|--------|---|-----------|
| ① | ア | ヘラクレイトス | イ | デモクリトス | ウ | エンペドクレス |
| ② | ア | ヘラクレイトス | イ | デモクリトス | ウ | アナクシマン드로ス |
| ③ | ア | ヘラクレイトス | イ | ピュタゴラス | ウ | エンペドクレス |
| ④ | ア | ヘラクレイトス | イ | ピュタゴラス | ウ | アナクシマン드로ス |
| ⑤ | ア | タレス | イ | デモクリトス | ウ | エンペドクレス |
| ⑥ | ア | タレス | イ | デモクリトス | ウ | アナクシマン드로ス |
| ⑦ | ア | タレス | イ | ピュタゴラス | ウ | エンペドクレス |
| ⑧ | ア | タレス | イ | ピュタゴラス | ウ | アナクシマン드로ス |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 3	13	⑤	3

2017 年本試

問 6 古代ギリシア・ローマにおける哲学者についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

16

- ① ヘラクレイトスは、万物の根源を火であるとしたうえで、「万物は流転する」と唱え、その絶えず変化する様子に法則性は認められず、調和した秩序は見せかけのものにすぎないと主張した。
- ② パルメニデスは、論理的思考に基づいて、在るものは常に在ると説き、世界における変化や生成は見かけだけの現象にすぎず、存在するものはただ一つであって、生成も消滅もしないと主張した。
- ③ プラトンは、この世に生まれた人間の魂を、感覚の世界に^{とら}われ、アイデアを忘却してしまったものと考え、アイデアの世界はいかなる手段によっても知ることができないとする二世界説を唱えた。
- ④ マルクス・アウレリウスは、ローマ皇帝であると同時に、自らも哲学を修め、この世の現象は原子の不規則な動きによって構成されているという原子論の考えを発展させた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 6	16	②	3

2011 年追試

問 5 占いに対する哲学者の賛否両論を紹介するキケロの著作では、占いに対する賛否双方の立場から、様々な哲学者の議論が引かれている。次のア～ウは、そこに登場する哲学者についての記述であるが、それぞれ誰だれのことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

9

ア 紀元前 585 年の日食を予言するなど、天文学や幾何学に通じ、自然について合理的説明を与えることを試みたと伝えられている。

イ デルフォイの神託をきっかけとして哲学的対話の活動を始め、ダイモーンの声聞いて自らの行動を律したと言われている。

ウ 神々の摂理を否定することによって、迷信などがもたらす心の動揺から解放されることが、真の快樂を得るために不可欠であると論じた。

- | | | | | | | |
|---|---|---------|---|-------|---|--------|
| ① | ア | ピタゴラス | イ | ソクラテス | ウ | エピクロス |
| ② | ア | タレス | イ | プラトン | ウ | ゼノン |
| ③ | ア | ヘラクレイトス | イ | ソクラテス | ウ | ゼノン |
| ④ | ア | ピタゴラス | イ | プラトン | ウ | プロティノス |
| ⑤ | ア | タレス | イ | ソクラテス | ウ | エピクロス |
| ⑥ | ア | ヘラクレイトス | イ | プラトン | ウ | プロティノス |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	9	⑤	3

2006 年追試

問 1 タレスに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 世界は生成変化のうちにあり、静止しているものはないと考えた。
- ② 世界は根本的原理によって説明ができ、それは水であると考えた。
- ③ 世界は不死なる魂と美しい数的秩序の調和のうちにあると考えた。
- ④ 世界は土・水・火・空気の離合集散から成り立っていると考えた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	4	②	2

2003 年追試

問 3 初期ギリシアの自然哲学者たちに関して，この哲学者たちの思想についての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

4

- ① 事物は神である「一者」を根源として，そこから流出によって派生的に生成したのであり，人間は実在界と感覚世界との中間に位置する。
- ② 事物は普遍的な理^{ことわり}（ロゴス）に基づいて生成し，人間はこの理に従うことで情念に支配されない，理想の生き方を実現することができる。
- ③ 事物は質料に内在する固有の形相が現実化していくことによって生成するが，この世界それ自体は生成も消滅もせず，永遠に存続する。
- ④ 事物は多様な仕方で生成するが，その根源には「空気」「水」といった構成元素が，本質において変わることのない原理として存在する。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 3	4	④	3

2002 年本試

問 1 文章中の に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。

古来、偉大な哲学者や宗教家は、伝統的権威や既存の価値観などと対決しつつ、
自らの思想を生み出してきた。古代ギリシャの思想家であるクセノパネスは、「死す
べき人間どもは、神々が自分たちと同じような装いや声や姿をもって生まれ出たも
のと思っている」と述べ、ギリシャ神話における を批判している。ギリシャ
の哲学者たちは、当時の社会において支配的であった神話を批判することから出発
して、神についても理性的な探究を行ったのである。

- ① アニミズム的な神観念 ② 一神教的な神観念
③ 理性主義的な神観念 ④ 擬人的な神観念

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	1	④	2

2000 年追試

問 2 古代ギリシャにおいて、「万物は流転する」ということばを残した思想家は誰か。次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ヘラクレイトス ② ピタゴラス
③ プロタゴラス ④ ストア派のゼノン

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 2	3	①	2